



下街道

中仙道を上街道といい、ここで分かれて下る道を下街道と呼んだ。

下街道は竹折・釜戸から高山（現土岐市）・池田（現多治見市）を経て名古屋へ行く道である。

この道は途中に内津峠の山道があるが、土岐川沿いの平坦地を進み、付近には人家も多い。そのうえ名古屋までの距離は上街道より四里半（約一八里）キロ近かった。そのため下街道は一般旅行者に加えて商人や伊勢神宮の参拝者も多く大変にぎわった。しかし幕府は中仙道の宿場保護のため下街道の商人荷の通行を禁止し、尾張藩も厳しく取締まったが徹底することができず、幾度も訴訟裁定を繰り返した。

～～山はみどり 野に花 人にはころろ～～



槇が根立場の茶屋

江戸時代の末頃（ここには槇本屋・水戸屋・東国屋・松本屋・中野屋・伊勢屋などの屋号を持つ茶屋が九戸あった。そして店先にわらしを掛け餅を並べ、多くの人がひと休みしてまた旅立って行ったと思われる（旅人の宿泊は宿場の旅籠屋を利用し、茶屋の宿泊は禁止されていた）。

これらの茶屋は、明治の初め宿駅制度が変わり、脇道ができ、特に明治三五年大井駅が開設され、やがて中央線の全線が開通して、中山道を利用する人が少なくなるにつれて、山麓の町や村へ移転した。

そして今ではこの地には茶屋の跡や古井戸や墓地などを残すのみとなった。